消費者市民社会の構築に関する領域

エシカル消費プログラム
「あなたの「選ぶ」から創るしあわせな未来」の取組について

公益財団法人 消費者教育支援センター 主催
消費者教育教材資料表彰2025
内閣府特命担当大臣賞

ロッテ エシカル消費プログラム

あなたの選ぶから創るしあわせな未来

未来に向けて、自分はどのような消費行動を
選択したいと考えるか、深く考える機会を提供します



株式会社ロッテ　サステナビリティ推進部 食育推進課　池田なつき・川崎大輔

エシカル消費プログラム「あなたの「選ぶ」から創るしあわせな未来」の取組について

株式会社ロッテ　サステナビリティ推進部 食育推進課　池田なつき・川崎大輔

株式会社ロッテ　エシカル消費プログラム「あなたの「選ぶ」から創るしあわせな未来」ホームページ：https://teacher-site.net/lotte/ethical/index.html

英語で「倫理的」「道徳的」を意味する言葉、「エシカル」。人や社会、環境、地域に配慮した製品やサービスを選択する消費行動を「エシカル消費」と言います。エシカル消費は特にSDGsのゴール12「つくる責任、つかう責任」の達成を支える取組でもあります。大手菓子メーカー、株式会社ロッテ（以下、㈱ロッテといいます。）は、中学生を対象に、「未来を考えて、自分の行動を選ぶ」きっかけとして、身近なお菓子を題材にエシカル消費について学べる教材を開発。中学校に無償で提供しています。この教材は消費公益財団法人消費者教育センター主催「消費者教育教材資料表彰2025」内閣府特命担当大臣賞を受賞しました。㈱ロッテに開発の経緯や、内容の工夫について伺いました。

▶教材開発のきっかけを教えてください

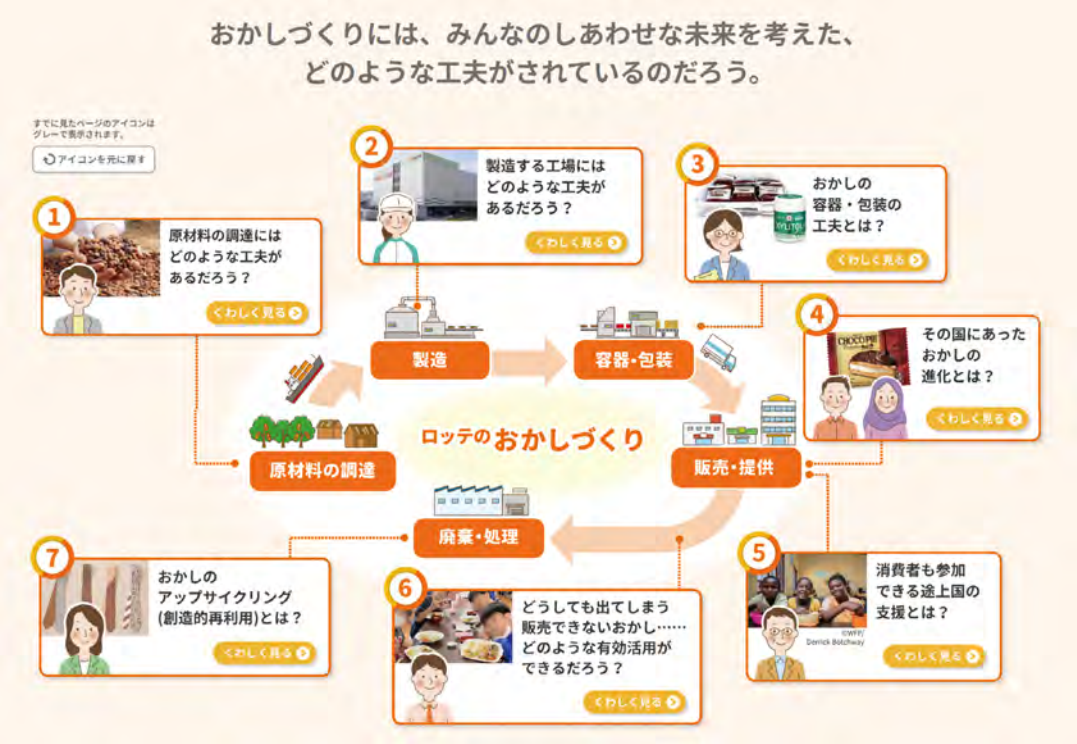
全社的にサステナビリティを推進していく中で、2019年にサステナビリティ推進部内に食育推進課が設置され、同課が中心となって食育活動を行っています。活動はロッテらしさを大切にしています。

学校向けの教育支援活動は３つあります。１つ目の「出張授業版：ロッテイノベーションチャレンジ～未来のおかし開発室～」は、小学校高学年を対象にした新商品開発体験で、ロッテの企業理念と商品開発の考え方を伝え、児童の創造的思考力を育成しています。２つ目は「教材提供版：めざせ！かむことマスター」で、ガムの製造から創業し、噛むことを長年研究してきた会社として、小学校低学年向けに噛むことの大切さと習慣化を学習する機会を提供しています。今回は３つ目で、製造・販売活動の多くを占めているチョコレートをテーマに、ロッテの事業活動がどのように環境や社会課題に配慮しているかを知ってもらいたいと企画しました。

消費行動といっても、中学生の買い物は文房具とか洋服、お菓子など大人に比べて範囲が限られると思うので、お菓子はわかりやすい身近な題材なのではないでしょうか。

▶どういった教材ですか

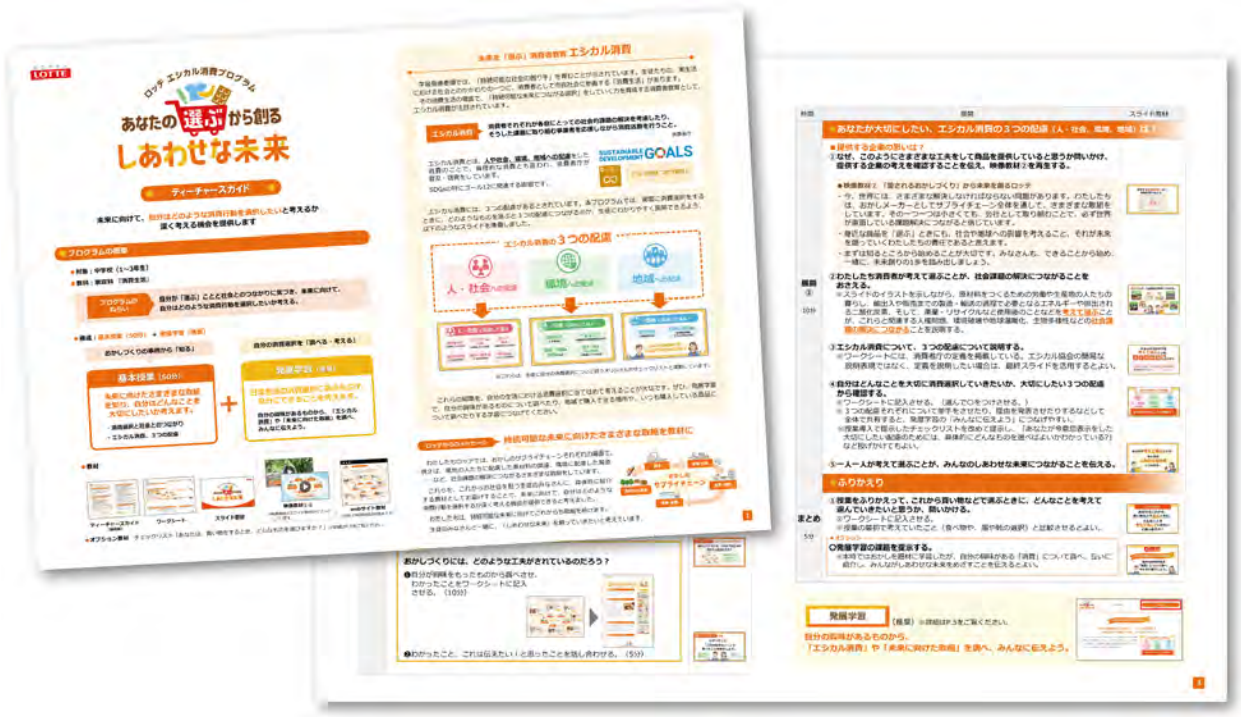
生徒自身のICT端末からアクセスするWEB教材と、教員用のスライド、指導案を用意しています。お菓子づくりをテーマに、原材料の調達から、製造、包装、販売、廃棄までのサプライチェーンの各工程での工夫が学べるようになっています。



お菓子作りをテーマとしたWEB教材



教員用のスライド



教員用の指導案

たとえば、原材料の調達では、チョコレートの原料であるカカオ豆の生産地が抱える貧困や児童労働などの課題を取り上げています。日本に輸入されるカカオ豆の主要な生産地は西アフリカです。なかでもロッテはガーナ共和国との取引が中心ですが、カカオ豆の生産地には小規模な家族経営の農家が多く、児童労働という課題があります。井戸がなく、水汲みに子どもの力を借りざるを得ないのです。学校に行けない子どもたちの多くは、農薬や肥料を正しく使って収穫量を増やしたり、他の仕事に就いたりして貧困を脱出する機会を奪われています。

そこで、ロッテでは井戸をつくって生産地を支援しているなど、ITで生産地を管理してリスクに対応しています。４分半の動画には、社員が撮影したカカオ豆の生産者の声も盛り込まれ、生産地と調達者の我々が相互利益となるような関係を目指していることがわかる内容になっています。



ロッテがカカオ豆生産地支援のためにガーナ共和国につくった井戸



ガーナ共和国のカカオ豆生産者（教員用スライド教材の動画より）

また、例えば製造の工程では再生可能エネルギーを使用していることや、包装の工程ではプラスチックの使用量削減のため、強度を保ったまま容器を薄くする工夫や、再生紙・代替素材の使用で地球にやさしい包装を目指していることなどがわかりやすく学べます。

生徒のみなさんにWEB教材でロッテがサプライチェーンでどういった工夫をしているのか調べ学習をしてもらった後に、まとめとして社長自ら企業の思いを伝える動画を用意しています。ロッテだけではなく、各企業が持続可能な社会を目指して活動しているということ、自分がそうした企業を選ぶことでエシカル消費が実践できると伝えるものです。学んだことを最後に「自分事化」してもらう流れになっています。



教員用のスライドには動画も２本盛り込まれている

▶工夫した点を教えてください

エシカル消費への注目は高まっており、先生が教科書を教えるだけではなく、企業が実際にどのような活動・配慮をしているのか知りたいというニーズがあります。しかし、企業側が伝えたいことを一方的に訴えるだけでは、教材として継続的に使ってもらえません。長く使ってもらえるように、学習指導要領に則って、教える側のニーズをとらえることを目指しました。また､GIGAスクール構想でひとりに一台、コンピュータやタブレット端末が配備されている状況を踏まえ、視覚的にわかりやすい、デジタルに対応した教材にすることにしました。

WEB教材はサプライチェーンの画像から興味のあるところをクリックすると解説が表示されます。能動的な学びを引きだすほか、個人でも学べて、グループで調べ学習をする時も同じ画面を見ながら協議できます。ワークシートも用意し、各自が調べた内容をメモできるようにしてあります。文字を読むのが苦手な生徒にも興味を持ってもらえるように、４コマ漫画も載せました。



社会課題の解決をめざしたさまざまな取組を、中学生にわかりやすく紹介



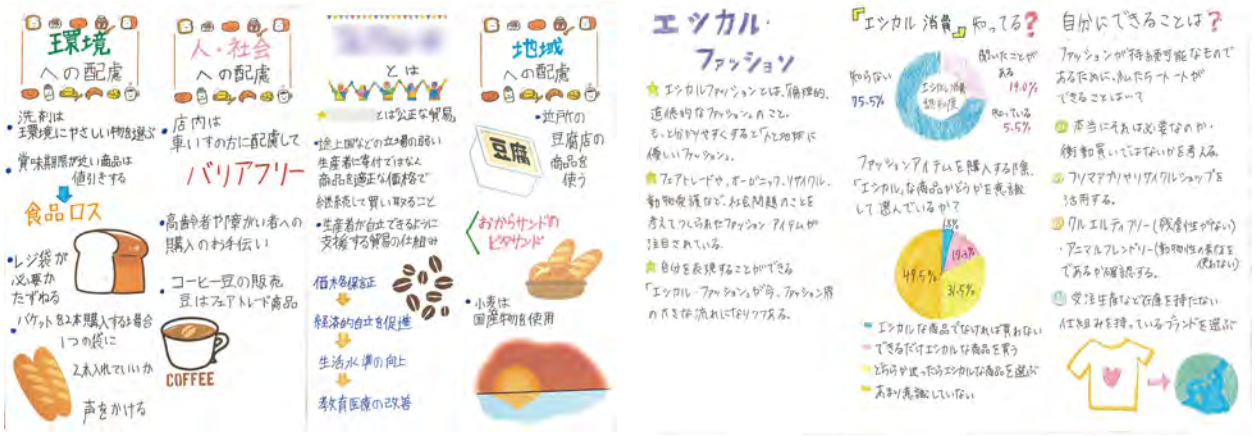
ワークシートを使って調べた内容をまとめる生徒

▶先生や生徒の反響はいかがですか

先生にとっては、エシカル消費は教材もなく、自分自身が新しい概念であるエシカル消費やSDGsを正しく理解している自信を持てないところもあり、どう教えようか悩んでいるという声がありました。この教材は先生自身の学びに役立ち、学んだことを授業で生かしていけるので、先生を手助けする意味は大きいと思います。また、お菓子という身近な題材で使いやすいという声をいただいています。

発展学習に取り組んだ学校では、この教材でどういった配慮があるのかを理解した後で、コンビニエンスストアやファストフード店にインタビューに行ったケースもありました。発展学習の例はWEB（https://teacher-site.net/lotte/ethical/advanced.html）で紹介しており、長期休みの課題や探求学習の参考にしていただけると思います。

もともと詰め替え用を買ったり、手前取りをしたり、エシカル消費だと思わずにしていた行動が持続的な社会につながっていたことに気が付いたという生徒もいました。これまでなにげなく買い物をしていた生徒たちも、地球環境のための選択を考えなければいけないと学んだという声を多くいただいています。



ホームページでは、発展的学習に取り組んだ例を紹介している

▶実施状況を教えてください

2023年度に教材を開発し、２校で検証を実施しました。24年度は目標の30校に対して60校で実施、25年度は目標50校に対し81校で実施されています。昨年は夏に技術家庭科の先生の研修があり、この教材を知っていただいたところから実施校数が増えました。今後、先生や関連団体に説明する機会を設けながら、地道に広げていけたらと思います。教材の完成度の高さは自負しており、社内でも現場では自分が担当する工程しか知る機会がないので、自社の取り組みを俯瞰して見ることができると好評でした。

▶教材を通じて身につけてほしいことは

SDGsゴール目標の一つ「つくる責任、つかう責任」のうち、つくる責任の方は私たちメーカーが配慮して製造・販売します。つかう責任には、消費者のみなさんにもSDGsに対応した製品、サービスを選ぶ責任があり、選ぶためには学ぶ必要があります。

教材の最後に「１人の100歩より100人の１歩から」という言葉が出てきます。一人ひとりのどんなに小さな行動でも、それが未来につながっていくということを認識しながら、普段の消費行動につなげていただけたらと思います。

ロッテ以外にも様々な企業がSDGsに取り組んでいます。今回の教材をきっかけとして、ほかの活動にも気づくようになると、視野がどんどん広がっていくはずです。そして将来がよりよいものになっていくことを願っています。



「１人の100歩より、100人の１歩から」

もっと知りたい方はこちら！

㈱ロッテ　サステナビリティレポート「私たちの　ロッテ　ミライチャレンジ2048」：
https://www.lotte.co.jp/corporate/sustainability/pdf/2025/sus-com2025.pdf